



つばさ

多摩市立聖ヶ丘小学校
特別支援教室 つばさ
令和 6年 6月 17日
つばさだより 第3号

子供同士の輪から生まれる「みえない力」

「ね、ドッジボールしない?」「いいよ!」「やろう!」ある学年の小集団指導の隙間の時間、たまにこんな声が聞こえてきます。プレイルームは本格的なボール遊びには少し手狭ですが、そんなことは関係なく子供たちは真剣にドッジボールの準備を始めます。「チームはどうする?」「学年で別れようか」「大人対子供にしようか」先生も同室にはいますが、こんなときはほぼ介入せずに子供たちの「輪」に任せていきます。

チームができるとソフトビーチボールのボールの投げ合いが始まります。するとどの子の顔も、見る見るうちに一人でポツンといるときには見せない躍動的な表情に変わっていきます。「あー!なんでこっちばっかねらうの!」「顔はセーフだよ」「早く投げすぎ!」数人で始めた一つのゲームに熱が入り始め、どの子の顔も真っ赤になっていき、笑い声や悲鳴が部屋いっぱいに広がります。たまにヒートアップする時もありますが、一人では得られない遊びのドキドキやワクワクを約 10 分程度の時間で満喫していきます。中にはこうした集団遊びを大人数で行うのが苦手な子もいますが、つばさに集まった数名でやっていくうちに「楽しめる力」が付いてきたようにも思います。そして何より、「またやろう」「またやりたい!」という流れが生まれることもあります。こうした子供同士の「かかわり」から少しずつ同じ時間、空間にいる相手を意識したり(名前を呼び合う・相手の事情を知る)集団として活動することのおもしろさを認識したり(ボール遊びがおもしろい)する見えない力が生まれていると感じます。

個別指導、小集団指導と授業の「枠」としての支援教室でもありますが、半分ねらって半分自然発生する子供同士の遊びの「輪」を指導の延長としてうまく応援していきたいと思う6月のはじめです。

自分の身体を動かすイメージやバランス(体幹)を遊びの中から

特別支援教室の中には、自分の身体を動かすときのイメージやバランスを遊び感覚で身に付けていけるための道具がいくつかあります。トランポリンやバランスボール、バランスボード(スケートボード)、キャッチボール用のグローブ等々といった具合です。個々の得意、不得意や興味関心の違いはもちろんありますが、これまで自分が体験してこなかった動きに出会って、自分の動きにしていく楽しさに気が付く場面を目にすることがあります。今日はバランスボードのエピソードです。公園等で子供たちが乗っているのをよく見かける二輪のボードですが、乗りこなすには多くの課題があります。

- 1 左足を軸にしてボード前部に乗ります。(この瞬間は左足一本でボードに乗っていることになります。)
- 2 すかさず、右足でボードを前に進ませながらボード後部に右足を載せます。(ボードが倒れないようにボードの真ん中を体の体幹を使って見つける必要があります。)
- 3 体の上部バランスを保ちつつ、腰の回転と上体をくねらせを組み合わせながらボードの推進力に合わせて板に乗ります。(人によっては方法が違う方もいるかもしれません。)

最初は、壁伝いに恐がりながら乗ったり両手を支えてもらいながら乗ったりと、悪戦苦闘していく姿が見られますが、だいたい2週間くらい練習しているうちに自分の中に「乗る」イメージができるようです。「見て!」「乗れるようになってきた!」自分でボディイメージを確認しながら体得した動きには肯定的な自信を感じることもあります。それは「できた!」という高揚感と自分で自分の身体をイメージしてコントロールする楽しさなのかもしれません。



つばさ文庫・読み聞かせから考えよう・絵本紹介

「さやかちゃん」(作 くすのき しげのり 絵 こば ようこ)

「人を好きになる」ことってどんな感じだろう。ある日、四国からやってきた転校生のさやかちゃんに出会った一人の男の子。さやかちゃんが来た学校生活場面を通していろんな変化やちょっとした事件が起こります。絵本のイラストや文章から伝わるさやかちゃんや男の子の心情をみんなで読み解いたり共感したりしています。



お知らせ

- ・個別指導計画(第一期から第三期まで年3回つばさ教室での指導内容と評価計画が出ます。)の第一期分を配布いたします。内容を確認していただき、**不明な点、指導内容の付け足し**などがある場合はその旨をつばさ教室までご連絡ください。(連絡ファイル、電話等に対応いたします。)
- ・個別指導計画の内容について**特に問題がない場合はそのまま各ご家庭にて保管してください。**